気候変動×防災

NPO法人 1000年の森を育てるみんなの会

鈴木（すずき） 大介（だいすけ）さん

「森を守ることは、水資源を守り、先人の努力に感謝し、未来を作ることです」。開拓の歴史の先を見据えて地域課題の解決に挑む鈴木さんに、このまちに対する思いを聞きました。

森に親しむ文化を次世代へつなぐ

本来、森は貯水機能を持っていますが、管理・活用しないと木が枯れたり腐ったりし、その力を失います。放置を続けると、気候変動の影響で大雨が増えたとき、洪水のリスクが高まる恐れも。水の恵みを受け続けるためには、山や森を守り、管理していくことが重要です。また、森を守ることは、農業振興、エネルギーの確保など、多くの地域課題の解決につながります。

私たちは、森林を活用する文化を作りたいと考え、二つのプロジェクトを進めています。一つは、板室街道沿いの平地林の整備計画です。危険な木を手入れするため、森の所有者の調査などを進めています。もう一つは、地元の子どもたちに間伐やまき割りなどを体験してもらうワークショップです。今後も、森を手入れする苦労や大切さを、将来を担う子どもたちに伝えたいと思います。

この地域は、もともと水が乏しく、先人の努力によって豊富な水を得られるようになった歴史があります。その精神を受け継いで、次の時代を作ること。それが私たちの使命だと考えています。

豊かな自然が暮らしを守る

災害が起きたとき、私たちの命を守ってくれる堤防などの防災設備。しかし、人口減少が進む中で、その維持管理を行う担い手や費用が不足する恐れがあります。そこで注目されているのが、「生態系を活用した適応策（EbA：Ecosystem-based Adaptation）」という新しい考え方です。これは、森林や地形といった自然の要素や、水の循環などの生態系のプロセスを最大限に活用し、気候変動によるさまざまな課題の解決を図るものです。

本市でもこの考え方を取り入れ、今年度、自然を生かした土砂災害・浸水被害対策の強化に向け、さらに調査を進めていきます。

気候変動×観光

Moora（ムーラ） Beat（ビート）

深澤（ふかさわ） 譲二（じょうじ）さん

観光客と一緒に板室エリアを歩き、温泉街の歴史や文化、人間と共存する動植物などを紹介している深澤さん。このまちの多彩な魅力を伝える「旅のコンシェルジュ」に話を聞きました。

最新情報をもとに柔軟な対応を

ゲリラ豪雨が増えたり、まちなかに雪が積もることが減ったり。これまでは緩やかだった四季の変化が激しくなり、天気の予測が難しくなってきました。また、気候変動が進むスピードに、人の意識の変化が追い付いていないのではないかと感じます。お客様の中にも、以前と変わらず「那須地域は避暑地」というイメージを持っている人が多い印象です。

暑さや悪天候に備えるために、私は朝一番に天気予報を確認し、当日のツアーの内容をお客様と相談します。コースをいくつか用意して、暑いときは標高の高い場所や日陰の多いコースを散策したり、弱い雨のときは森の中で雨音を楽しんだり、その日の天気に合ったものを案内しています。また、観光客が増える夏休みは、暑くて虫が多く、実は1年を通して最も過酷な時期。「お客様には、良い季節に良い体験をしてもらいたい」という思いから、私は8月以外の来訪を勧めています。

今後もお客様とガイド双方の安全や健康に注意しながら、板室温泉のさまざまな魅力を伝え、まちのファンを増やしていきたいです。

どうなる？観光地の未来

長年観光客に愛されてきた沼ッ原湿原のニッコウキスゲ。その数が減りつつある理由の一つは、気候変動だと考えられます。

水源が少ない沼ッ原湿原では、雨や雪が減ると土が乾いて堅くなり、水辺に適した植物が生きづらい環境になります。実際、ここ10年ほどで、ニッコウキスゲとは別の種類の草木が増えています。「湿原から草原へ、草原から森へ」という自然の流れに従い、沼ッ原湿原は姿を変えようとしているのです。

湿原を花の美しい観光名所として維持するなら、人為的に手を加える必要があります。しかし自然の大きな変化をありのままにとらえ、理解するのも楽しみ方の一つ。このまま気候変動が進めば、観光のあり方そのものが問われるかもしれません。